

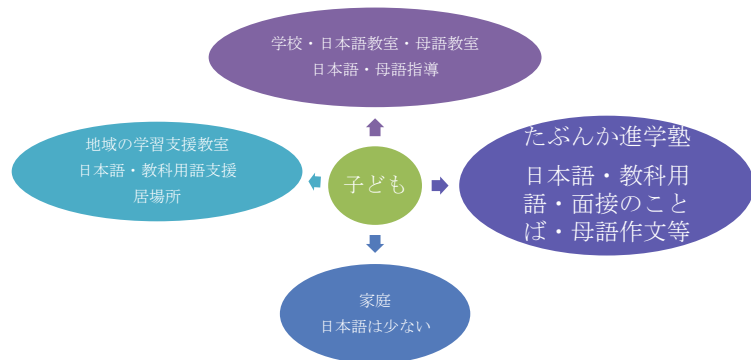
多文化な子どもへの支援 —高校入試へのサポートとは—



坪内好子

1. 実践の場の特徴

- ◇ 2013年12月大阪市塾代助成事業開始時に NPO 法人多文化共生センター大阪がたぶんか進学塾を開講
- ◇ 中国・フィリピン・タイ・アメリカにルーツを持つ子どもが年間 10 名前後学習
- ◇ 滞日期間は約 1 か月～6 年程度で大阪市・大阪府・兵庫県在住生
- ◇ 日本語・数学・英語学習の後高校入試にチャレンジする



2. 実践の目標

- 多文化な子どもたちの将来の自己実現につながる高校入学と卒業まで持ちこたえる力を蓄積する支援
- ① 身近な教材を選択…インターネット上や図書教材、「大阪市帰国した子どもの教育センター校」作成教材、地域の子どものための学習支援教材等 当センター教材改良中
 - ② 学校文化の伝達 例：授業開始時の挨拶、「起立、礼」等
 - ③ 元学習者のエンパワメントの場であり母語対応のできる指導の場を提供する

3. 具体的な実践の内容とその過程

- ① 年間指導計画…教科の学習用語の読みと意味理解に重点をおきながら過去問の形式に慣れる(数学・英語・日本語) 個々の状況に合わせた会話、漢字、文法事項、作文等を組み合わせた個別指導計画 当塾の復習テスト、プレテスト結果の比較から課題を整理する。
- ② 指導体制…塾講師養成講座を受講した元当事者、日本語指導有資格者、学校講師、元塾講師、大学生、大学院生等 少人数制
- ③ 母語支援…作文、教科指導、保護者へのコメント等から母語保持、アイデンティティの保持、保護者と繋がる。言語対応は、中国語、英語、スペイン語、タイ語等
- ④ 他団体・学校との連携…地域の学習支援教室、「帰国した子どもの教育センター校」と情報を交換し課題について情報共有する。学校に在籍していない「既卒生」についての支援内容についても情報共有する

結果と考察

- ◇居場所を確保し安心して学習でき、進路に向けて意欲的になった。
- ◇母語支援の日は悩みも打ち明けられる場ともなった。
- ◇1期生の中には大学に合格し「たぶんか進学塾」で教えたいと語る子もいる。
- ◇大阪市・大阪府、兵庫県の入試制度の違い、地域の学習支援教室・日本語教室間での高校入試へのサポート体制の差が大きく、子どものための日本語指導・教科指導・府教育庁での資格審査のガイドブック作成が待たれる。
- ◇直面する子どもへの対応と同時に学齢期の子どもの日本語学習において生活言語と共に膨大な量の学習用語 N 学習が必要であるという実態を当事者の声として伝えていきたい。

